



埼玉高速鉄道、開業25年で累計利用者数8億人を達成 開業25年の軌跡をデータで紐解く ～沿線地域のあゆみとさらなる未来への展望～



埼玉高速鉄道株式会社（埼玉県さいたま市 代表取締役社長：平野 邦彦）は、2026年3月28日（土）をもちまして、開業25周年を迎えました。

この節目にあたり、一般財団法人 運輸総合研究所 及び 一般財団法人 計量計画研究所協力のもと、埼玉高速鉄道開業の効果を調査・分析し、開業以来の沿線地域への貢献や経済的な効果等の客観的なデータに基づくパンフレットを作成しました。

この分析によると、埼玉高速鉄道の開業が、若い世代にも支持される「選ばれるまち」の発展に寄与していることがわかりました。



【開業3年前の1998年の浦和美園駅周辺】



【2001年3月開業から25年後の浦和美園駅】

☑ 埼玉高速鉄道 開業効果 ～調査・分析結果（概要）～

■ 都心に便利、都心から便利に ～都心と直結！乗車人員が1日12万人に～

- ・乗車人員は開業当初の約3倍となる、1日あたり12万人に増加しました。
- ・埼玉スタジアム2002の主要アクセス手段として、これまでに、延べ1,700万人を超える観戦客の輸送を担っています。

■ 人口が増加し、まちも成長 ～駅勢圏人口が5.8万人増。税収増にも大きく貢献～

- ・駅勢圏（駅から1km）人口が約1.4倍（約5.8万人）に増加しました。
- ・沿線の人口増は、地域の税収に約1,240億円の増加効果をもたらしたと推計しました。

